

新富町のシンボルにもなっているアカウミガメ。毎年、富田浜に上陸して産卵をします。海へ向かう子ガメの姿を見たことがある人もいるでしょう。身近な存在であるアカウミガメですが、実は絶滅危惧種に指定されており、ジャイアントパンダと同じくらい絶滅の危険性が高まっています。そんなアカウミガメの保護活動を引っ張っているのが、新富町アカウミガメ保存協議会の根井武俊(ねいたけとし)さんと、岩切通(いわきりとおる)さんです。

保存協議会の活動は大きく2つあるそうです。1つ目はゴミ拾いなどの砂浜の美化活動。砂浜をきれいにしておかなければ、アカウミガメは上陸できません。2つ目は、アカウミガメの毎年の生体状況を確認するための産卵や孵化に関する調査です。

アカウミガメの産卵は5〜8月、孵化は7月〜10月が



いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

## #002 今月の新富人

シーズン。この時期、毎日朝4時から富田浜を見回ります。親ガメにつけられたタグと呼ばれる個体識別番号をチェックしながら、親ガメの大きさ、上陸数、産卵した場所を記録します。これらの作業をすべて、保存協議会のメンバーとボランティアで行っている根井さんと岩切さん。2人が



岩切通さん・根井武俊さん

●新富町でご活躍されている方を編集部までお寄せください。自薦・他薦は問いません。  
 編集総務課 ☎333・6002

**岩切通さん(写真左)**  
 1951年生まれ。7年前に新富町アカウミガメ保存協議会にわり、生態や保護活動についての解説を担当している。

**根井武俊さん(写真右)**  
 1943年生まれ。14年前から活動をはじめ、孵化場の設置など保護活動に尽力。新富町アカウミガメ保存協議会代表。

保護活動に興味を持ったのは、実はそれぞれ60歳を過ぎてから。健康のために富田浜をウォーキングしていた最中に、たまたま活動を見かけ手伝ったのが、関わるきっかけでした。その後、活動に携わる中でアカウミガメに魅せられた岩切さんは、「アカウミガメが安心して戻ってこられる環境を確保した上で、新富町の観光資源になってほしい」と願っています。



一方の根井さんも、「この活動が自分の居場所になっっている」と語り、高潮や野生動物の食害から卵を保護するため、知恵を絞っています。卵を保護する「孵化場」の設置は、根井さんのアイデアです。

こうした保護活動は、町民の協力も欠かせません。特に「砂浜への車を乗り入れはしないでほしい」といいます。親ガメが産卵をやめてしまったり、子ガメや卵を踏みつぶしてしまったりする危険があるからです。同じシーズンに海岸に産卵するコアジサシの巣の破壊など、他の生き物への影響も心配されています。

地域と一体で取り組んでこそ保護活動。町のシンボルを守り、伝え、後世へ残すために、今日も日の出前から富田浜を歩きます。